

まつもと じゅん 中区・磯子区・金沢区
松本純 まちかど
 政治瓦版



令和3年2月1日号
 発行
 かながわ
 1区支部
 発行責任者
 平木 茂

2月号
 2021年
 No.218

松本純ホームページ 毎日更新中! <https://jun.or.jp/> ▶ 検索キーワード「松本純」

注目集まる 日本政府の「デジタル化」

ITの発想転換へ 利用者の利便性向上に繋がるサービスに向けて

日本政府のデジタル化が大きな課題となっています。実はデジタル化できていないわけではありません。しかし、その一方で省庁間の連携性が悪く、これが行政の非効率を生んでいます。また、過去の慣習を踏襲し続けたことによる非効率も生んでいます。これを効率化するというのがデジタル庁の役割でもあります。

そして、これはあくまでも役所の為ではなく、利用者の利便性の向上につながらなくてはなりません。ここに二つの考え方が存在します。一つは今の仕組みを使わず、全く新しい仕組みを導入するというものです。そして、もう一つは今の仕組みを使い続けたまま、それを連携する仕組みを作るというものです。

一見、前者の仕組みの方が良いように見えますが、データの移植作業などに膨大な手間がかかります。また、各省庁の仕組みはそれぞれの省庁に特化したものであり、必要に応じて機能が拡張されてきた経緯があります。これを一般的な汎用システムの載せるのは非効率を生む側面もあるわけです。

同時に一つの仕組みに依存するリスクも存在します。マイナンバー制度導入時も問題になりましたが、データを一元化するのは効率的ですが、同時に流出リスク、破損リスクなども大きくなります。

後者の仕組みの場合、各役所などのシステムは従来通りであり、そこに混乱は生じません。また、分散型管理を基本とするため、データの流出、破損リスクも軽減されます。問題はそのような連携する仕組みが作れるかということになりますが、実は、複数の専門家に確認したところ、日本にはそれを可能にするシステムと技術が存在することがわかりました。従来の資産を活かしながら、最先端のRPA（ロボティクス・プロセス・オートメーション）を活用し効率化を図る。松本はこれこそが日本のデジタル化の肝であり、国内の資産を最大限活かす政策の在り方であると考えます。

旧来型のITの発想

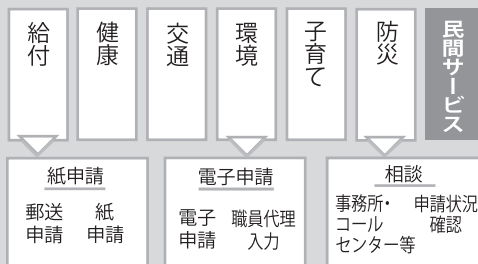
- ▷国民は行政サービスに合わせることを想定。要望はあまり想定していない
- ▷制度を制定したら、半永久的に運用

国民要望を取り込み、
 手続きや制度を見直す必要性

これからのITの発想

- ▷世の中の変化や国民の要望に基づき業務サービスを見直していく
- ▷その過程で、過去の資産（従来の基幹システム等）も活用しつつ、市場原理に合わせ、クラウドやPRA、AIを含め、最適な組み合わせでシステムを構成していく

●行政サービス



松本純です。LINE公式アカウントを開設しました。左のQRコードから今直ぐお友達登録をお願いいたします。随時、最新情報をお送りしておりますので、ご覧いただければと思います。

いま地域で
 (人・まち・出来事)

愛されてきた「食」の灯を守りたい

「寿司処 清川」店主 田邊好光さん(金沢区)
 金沢区食品衛生協会会長

寿司処



清川

田邊さんは県産商生活衛生同業組合の理事長も務めています

京急線「金沢八景」駅から数分歩けば、風光明媚な海の広がりが見えてきます。停泊する屋形船や釣り船の数々…、古くから漁師たちが活躍する金沢は今もなお、四季を通じ、東京湾などの魚介類がいち早く陸揚げされる鮮魚の街でもあります。金沢区六浦で創業50年の寿司処「清川」を営む田邊好光さん(75)は、そんな地元の鮮魚をいち早く客に提供する57年来の寿司職人。地元釣り船店から直接仕入れたアジを新鮮なまま酢と塩でしめた握り寿司「金沢八景・小あじ酢じめ寿司」は人気メニューとして広く知られています。「地元の皆さんに愛されて来た金沢の食の魅力を広げたい」と、ホームパーティーや会社の宴会などの注文に応じた出前すし店『訪問すし劇場』も展開しています。そんな田邊さんは平成20年から会員店舗数270店を誇る金沢区食品衛生協会会長に就任、区民の食の安心・安全と会員店舗の食品衛生管理普及の先頭に立っています。「食協」への評価は地元浸透し、横浜市大医学部・福浦キャンパスでは会員店舗による「弁当販売」が11年も続けられています。「歴史ある金沢には、お客様が育てくれた『無くしていけない食の歴史』があります」と語る田邊さん。「今こそ食文化を創り続けている飲食店への力強い支援を国にはお願いしたいですね」と田邊さんは笑顔を交えながらも、真摯に語ってくださいました。

【2021年1月】

松本議員の活動記録

12月11日●国税庁説明

- 17日●日本生活協同組合連合会本田英一代表理事会長面談
- 21日●『日本社会の処方箋』(松本純著) 徳間書店から発売開始
- 22日●自民党役員連絡会
- 25日●予算委員会与党理事懇談会
- 議院運営委員会与党理事懇談会

1月1日●末吉3・4丁目元旦国旗掲揚式

4日●与野党国対委員長会談後のぶら下がり会見

- 5日●自民党役員連絡会
- 6日●自民・公明・維新国対委員長会談後のぶら下がり会見
- 8日●雇用問題調査会役員会
- 12日●自民党役員連絡会
- 13日●二幹二国後のぶら下がり会見
- 15日●社会保障制度調査会医療委員会役員会



1/1 瀬戸神社歳旦祭・鶏鳴神事●佐野和史宮司による祝詞奏上後、今年の神事は佐野宮司が鶏鳴を。宮司は「皆さんがコロナ終息を願う心が大切、その願いが届くと良いですね」と仰っていました。



1/1 末吉3・4丁目元旦国旗掲揚式●村上健司元原議はじめ町内会、末吉昭和会、万青年会の皆さんが参集した掲揚式。小山哲夫町内会長から改修工事を終えた掲揚台の案内と新年の挨拶がありました。



1/1 森浅間神社元旦祭式典●ソーシャルディスタンスを保ちながらのお参りの中、松本小寿恵宮司により令和3年の平和と地域の安寧、コロナが終息し、普段の生活に戻れるよう祈願が行われました。



1/7 要望面談●「日本の医療・薬事について考える会」の発起人で薬剤師の高橋秀和氏、水八寿裕氏、高橋洋一氏から、薬剤師が処方箋を持たない女性にも緊急避妊薬を提供できるよう要望書を受けました。

永田町日記

緊急事態宣言下の会合スタイル

緊急事態宣言発令に伴い、志公会の会合の方法も大きく変化しています。

志公会では、国会開催中の毎週木曜日、例会を行い会員(議員)の情報と意思の共有を図るとともに、昼食会を兼ねる形で会員の懇親をはかってきました。しかし、大人数での会合は感染リスクが高いことも事実です。今回、感染リスクを避けるため、例会の運営方法を大きく変えることにいたしました。

マスク着用、検温、手指のアルコール消毒に加え、秘書を伴わない議員だけの参加とし、弁当はすべてお持ち帰りの形に変更、内容も短時間の会長挨拶など必要なものだけに限定し、会合は15分以内に終わらせています。中止することや完全リモート化をすることもできますが、やはり、人は直接会って話をすることが重要であり、これがないとコミュニケーションがうまくいかないことも実感しています。慎重に最大限の感染予防処置を取りながら、人と人のつながりを大切にしたいと思っています。



志公会例会後にメンバー議員に持ち帰って頂くお弁当を事務局長として事前に「検食」します